

上京

史蹟と文化

美を創る

新年のテレビ番組で、箏曲「春の海」のメロディが流れてきた。
宮城道雄（1894-1956）が作曲した箏と尺八の二重奏は
日本の正月をイメージするとして、箏に関心のない人たちにも広
く知られている。その宮城道雄の作品と生田流箏曲を伝承する宮
城会の一員、浅野啓子さんにお話を伺った。

箏の歴史は古く、奈良時代に遣唐使によって中国から伝えら
れた。京都に都が移った平安時代以降は、紫式部の「源氏物語」
や清少納言の「枕草子」などに、天皇や公家・貴族の間で雅楽
を演奏する楽器の一つとして箏を愛でている記述が見られる。

祇園祭に巡行する山の一つに伯牙山がある。別名を琴破山と
も言い、御神体である人形は斧を手に持ち、今にも琴を打ち破
ろうとする姿だ。中国の周時代、琴の名人伯牙が自分の琴演奏
を真に解してくれた友人である鍾子期の死を聞き、その絃を断つ
て再び弾くことがなかった故事を表している。

時代は下って、現代の箏曲は、宮城道雄の名を抜きには語れ
ない。宮城は1894年（明治27）神戸三宮居留地内で生ま



箏曲 宮城社 麗調会

浅野 啓子

上京区元中之町

れたが生後200日で目の病氣
を患い、1902年（明治35）、
8歳の時に失明宣告を受け、二
代中島検校に入門した。以後、
箏曲家として作曲、演奏の道を
歩み、邦楽に西洋音楽を取り入
れることで活性化を図り、新し
い音楽世界を開いた。それは「新
日本音楽」運動と称され現代邦
楽発展の起爆剤となった。32年
（昭和7）には、フランスの女
流ヴァイオリニスト、ルネ・シユ
メーと「春の海」を協演、好評
を博し世界的な名声を得ること
になった。48年（昭和23）に日
本芸術院会員となり、51年（昭
和26）に宮城会（門人が一つの



輪で結ばれ、演奏技術の向上と親睦を図るための会」を結成した。56年（昭和31）6月、大阪での公演へ向かう途中の列車から転落して、62歳の生涯を閉じた。作曲数は400以上、楽器の改良に努め、随筆家としても著名だった。

こうした歴史ある箏曲の世界に身を置く浅野さん。京都の大学に入るまで箏とは無関係だったそうだ。それが「大学の箏曲部に入って活動していました。また結婚相手のお母さんが箏曲の先生で、嫁ぎ先が文久年間（明治維新前の1861〜1864年）に創業された和楽器全般の製造・販売を行い、1945年（昭和20）頃から箏・地歌三味線を中心に扱ってお店で、この世界にどっぷり関わるようになりました」とのこと。今では楽器店を運営する傍ら、自宅で生田流箏曲を教え、京都三曲協会や上京薪能



などに麗調会の同人と共に出演して、優雅な調べで多くの人たちを魅了している。因みに三曲とは、地歌三味線（三弦）、箏、胡弓の3種の楽器の総称、またはそれらの音楽である地歌、箏曲、胡弓樂の総称で、後に尺八が加わった。

箏は桐の木をくり抜いた箱状の空洞で、上部はアーチ状、底部に板が張られており、中で反響した音が裏面の穴から響く仕組みだ。長さは約182センチ、190センチ、重さは約5.5キロもある。

また箏と琴は混同されることがあるが、絃が箏は13本、琴は基本的に7絃で全く別の楽器なのだ。箏は中国からの伝来、琴は日本の伝統楽器。大きな違いは、箏は柱と呼ばれる可動式の支柱で弦の音程を調節するのに対して、琴は柱が無く、弦を押さえる場所での音程を決める。右手の指にはめた爪（ピック）または指（あるいは手の爪）で弦を弾いて音を出すことは同じである。ただし箏の柱は「琴柱」と呼ぶのが一般的で、その台は琴台（きんたい）という。

箏はかつては未婚女性のお稽古（ぎよこ）として人気があった。知人から「仲の良いお友達と連れ立って先生のお宅に通ったことや、発表会を前に出来るやらかと緊張したこともありました」と聞いたこともあるが、今ではどうだろうか。

「幼少の頃から親しむお子さんはほとんど皆無ですね。広い座敷のある住まいが少なくなりお箏を置いたり稽古をするスペースもなくなつて、箏に興味を持つ若い人たちの数は減っていますが、それでも中には熱心に稽古をしておられる方もおられて嬉しいですね」。

箏を商うお店は浅野さんのアサノ楽器を含めて京都ではわずか3軒だけだとか。先行きに不安がないとは言えないが、奥ゆかしさを感じる日本的な楽器で、メロディを聞くと懐かしさと親しみが湧いてくる。永遠に弾き継がれることだろう。

（福井和雄）

ぶとり上京

仁和の歴史

(平安時代～江戸時代)を歩く

上京探訪シナリオ研究会 豊田 博一

今回は平安時代から江戸時代に
かけての「仁和学区」地域(以降、
仁和と表記)の歴史と史蹟を鳥瞰
的に紹介します。

仁和の歴史

平安時代の仁和

仁和は概ね、最北部は今出川通、
南は丸太町通の一部、東は千本通の
一部、西は紙屋川までの範囲です。

平安時代の仁和は、西大宮大路
(現在の御前通)以東が大内裏(平
安宮)で、多くの官庁が建ち並ん
でいた(下図参照)。また、西大宮
大路以西は平安京の右京であり、
官衙町(注1)が形成されていた。

注1 官衙(役所・官庁)に仕える下級貴族な
どの宿所が整備されて町となったもの。
仁和にあった大内裏の諸官庁

漆室(仁和小学校東門に説明板、東堅町、

西町通り)漆製品を制作する工房。
正親司(鳳瑞町北側通り)皇族の名簿を
作成し管理する役所。

右近衛府(西上之町、三助町、仲之町通り)
禁中を警衛、また朝儀に列し、行幸の
際には前後を警備、皇族や高官の警護
も行う役所。

右兵衛府(下之町、西東町西側通り)宮
門の守備、行幸・行啓の供奉、左右両
京内の巡視をする役所。

内匠寮(下之町通り)官宮工場の元締め
として宮中の調度品を制作する役所。
兵庫寮(東町、三軒町、一番町北側通り)
武器の管理、製造修理を行う役所。

大藏廳(一番町、二番町通り)諸国から
の税・調・庸、雑物を納める倉庫。
図書寮(鳳瑞町通り)国家の蔵書を管理、
また紙・墨・筆などの製造を行う役所。

紙の製造を主任務とする図書寮の付属
機関、紙屋院は良質の紙を製造し、そ
の紙は「紙屋紙」と称された。紙屋川
の名は、紙屋院の紙漉き場が北野天満
宮西辺りに所在したことによると言わ
れる(諸説あり)。

武徳殿(鳳瑞町南側通り)宮中で競馬な
どを観覧する際に用いられた施設。
造酒司(西東町東南)酒や醴・酢などの
醸造をつかさどった施設。



大藏省(地図参照)朝廷の倉庫である大
藏廳を管轄し、朝廷の銭貨・金銀・調・
貢物の出納、保管を行う役所。

掃部寮(生利町、六番町通り)宮中の掃
除や設営のことを司る役所。
真言院(稲葉町通り)公的な密教道場、
毎年正月に後七日御修法が行われた。
834年に空海の上奏によって設置。

内裏の荒廃後も東寺の支援および密教
道場の聖性によって機能が続いた。
内蔵寮(六番町、草堂前之町通り)金銀・
珠玉・宝器を管理し、供進の御服(天
皇への献上物の受付、祭祀の奉幣な
どをつかさどった役所)。

内膳司(尼ヶ崎横町通り)天皇の食膳の
調理を担当した役所。
采女町(尼ヶ崎横町通り)天皇・皇后に
仕え、寝食に従事した女官・采女の宿
所兼詰所。

中和院(千四軒町通り)新嘗祭等の際に、
天皇がみづから祭りの式を執り行われ
た施設。
宴の松原(図参照)大内裏の中央西にあつ
た広い松林。本来は内裏を建て替える
際の代替地として用意されたと言われ、

大内裏の変遷

またその名称から饗宴が催された場所
と考えられている。平安期には鬼の出
没する寂しく不気味な場所として知ら
れていた。

960年に内裏は炎上、その後
しばしば火災に見まれ、徐々に
天皇は里内裏(注2)に居住する
ことが多くなった。1219年に
内裏を含めた大内裏が焼失。その
再建途上の1227年には火災に
よって全焼し大内裏内での内裏
の再建は放棄された。1331
年には光厳上皇が里内裏だった
土御門東洞院殿(現在の京都御所
の母体)を皇居(内裏)として定
めた。

注2 大内裏の外に設けられた仮の内裏、多く
は摂政・関白などの私邸があてられた。

内裏の機能が実質的に里内裏へ
どんどん移行し、また様々な儀式
を行う力を朝廷が失っていった。
それにより、大内裏内に建ち並ん
でいた官庁も荒廃していき、鎌倉
時代には大半が荒野と化し「内
野」と称されるようになった。
1333年に足利尊氏が六波羅探
題を攻めた際、六波羅の軍勢が内

野に布陣して迎え撃ったのを皮切りとして、1391年の明德の乱（注3）における内野合戦など、南北朝期から戦国期にはしばしば戦場となった。

注3 11か国の守護職をもつ有力大名山名氏の勢力を恐れた足利義満が、山名氏一族の内紛を利用して挑発して起こった戦。この勝利で義満は権力を確立していった。

しかし荒廃化するも、大内裏の観念は完全に消滅したのではなく、精神的には一種の朝廷の祖霊の宿る聖域として認識された。応仁・文明の乱（1467年～1477年）までは、神祇官、太政官庁、真言院が残り、天皇が行うべき祭祀や即位礼等のハレの儀式、国家鎮護の祈禱の場としての機能を果たしていた。

また武家権力（鎌倉・室町幕府）も、大内裏跡（内野）を鎮護されるべき場所と位置付けた（注4）。

注4 鎌倉幕府が1233年に出した禁制の中には、内野を馬場として馬術や騎射術の訓練を行うことを禁じるものがある。また鎌倉・室町幕府は内野での耕作を原則禁止した。

応仁・文明の乱後、室町幕府の力の低下に伴い、内野での即位礼等も行えなくなり、内野の聖域としての

観念も弱まっていく。1587年に豊臣秀吉により聚楽第が内野東部に建設されたことにより、内野の聖域の時代が終わる。仁和の内野地域にも一番町から七番町にわたって大名以外の武家屋敷町が形成された。聚楽第や組屋敷は短期間で破却されたが、江戸時代には、内野東南部に二条城が建設され、内野は民家、寺、耕作地に変貌していく。

西京の形成と発展

947年に創祀された北野天満宮は、藤原氏の庇護を受けその地位を確立、二十二社（注5）に列する神社となった。仁和西部（西大宮大路以西）は、北野天満宮の領域として発展し中世には「西京」（注6）と呼ばれるようになった。

注5 平安時代中期以降、中世において朝廷より格別の崇敬を受けた神社。祈雨・祈年穀をはじめ国家の大事に際して臨時に朝廷より使を遣わし、供物を献上した22の神社。

注6 「西京」は広い意味では、平安京の右京を意味したが、10世紀以降湿地の多かった右京の三条通以南は衰微していき、以北は北野天満宮領として一定の経済圏となった。そのため、中世になると「西京」とは、北野天満宮領となった東は西大宮大路、西は木辻通付近、北は一条大路、

南は三条通の地域を指すようになった。本稿ではこの意味で使います。

室町時代、足利將軍家の北野天満宮への崇敬は厚く、手厚い保護の下、社領を増やし、更には酒麴の販売の独占と酒麴役（現在の酒造税）の免除を認められていた。

西京には「神人」と呼ばれる人々が多く居住していた。彼らは、商工業者でもあり、北野天満宮の庇護下で税の免除を受け、神社に奉仕（貢納、献金、賦役）すること共になされた。

酒麴の販売は「西京神人」（注7）と呼ばれる人々が独占して非常に栄えた。しかし独占に反発する酒屋の後盾、延暦寺の圧力により、幕府は酒麴の独占権の廃止を認めた。これに反対する麴座の面々は北野天満宮に立て籠もったが鎮圧されて西京神人の勢力は弱まった。（1444年文安の麴騒動）

注7 菅原道真が太宰府で薨じた後、随従の人々が帰京して西京の地に菅原道真公を祀り北野七保と後世呼ばれる7か所の御供所を建てたと伝わる。御供所には神仏習合によってそれぞれ神宮寺が建てられ、保の住人は神人として北野天満宮に奉仕して諸種の神事にあたったのが始まりと伝承されている。



家族葬は公益社へ

小さいお葬式にも丁寧に対応します

☎ 0120-004-200
ご葬儀お申込み 無料相談 24時間受付

詳しくはホームページで
ブライツホール

仁和のお寺

江戸時代に、それまで空き地であった内野に立本寺を始め、多くの寺院が移転してきた事により自然に寺町が形成された。

仁和には美しく手入れされ、出水の七不思議と言われるような逸

話や由来を持つているお寺もある(注8)。さらに、江戸時代の有名な人のお墓が数多くあるのも特色です。(注9)

注8 極楽寺(浄土宗。豊臣秀吉が北野大茶湯で用いたと伝わる名水「金谷水」の井戸がある)、観音寺(浄土宗)、五劫院(浄土宗、地福寺(真言宗)、華光寺(日蓮宗)、



注9

光清寺(臨済宗。岩倉家の菩提寺で、庭園は重森三鈴の作庭)に逸話が残る。逸話は、「史蹟と文化」29号 大略小路出水の七不思議(出雲路敬直氏) 参照。

山本梅逸 江戸末期の南画家(江戸時代中期頃の日本において盛んになった山水画を主とする絵画様式の画家。慈眼寺(曹洞宗。1588年 鷹司信房の北の方が、父佐々成政の菩提を弔うため建立)に墓がある。神沢杜口 江戸時代中期の俳人、随筆家、京都町奉行所の役人、「翁草」の著者。慈眼寺に墓がある。

白幽子墓(法輪寺(だるま寺。臨済宗。参1)「上京乃史蹟」30号 上京文人墓誌 白幽子墓(竹村俊則氏) 参照。

長澤蘆雪墓(回向院)「上京史蹟だより」4号 上京文人墓誌 長澤蘆雪墓(竹村俊則氏) 参照。

灰屋紹益墓(立本寺「上京乃史蹟」23号 上京文人墓誌 灰屋紹益墓(竹村俊則氏) 参照。

島左近の墓(立本寺「上京乃史蹟」26号 上京文人墓誌 島左近の墓(竹村俊則氏) 参照。

平塚飄斎墓(華光寺「上京史蹟だより」8号 上京文人墓誌 平塚飄斎墓(竹村俊則氏) 参照。

宇喜田一蕙墓(華光寺「上京乃史蹟」22号 上京文人墓誌 宇喜田一蕙墓(竹村俊則氏) 参照。

お寺や神社に、ご挨拶をして巡ることをお勧めします。

大将軍八神社 794年、王城鎮護のために星神大将軍を勧請し創建と伝わる。大将軍神像80体(重文)は一見の価値あり。方除け厄除けの神。(参2、3、4)

竹林寺 浄土宗。(参1)

華開院 浄土宗。本尊の阿弥陀如来は、真如堂

の本尊と同木と伝わる。境内墓地には、後円融天皇の母藤原仲子、後小松天皇の母藤原厳子、8代将軍足利義政の妻である日野富子などの墓がある。

回向院 浄土宗。如意輪観音像は1628年に丹後の海中より光を放って出現したものと伝わる。

立本寺 日蓮宗。宝永の大火で焼失後(1708年、現在地に移転。具足山龍華院妙顕寺、具足山妙覺寺(北龍華、具足山立本寺(西龍華)の三寺で「龍華の三具足」と呼ばれている。報土寺 浄土宗。本堂は1629年の棟札によつて建築年代が明らかになった。浄土宗本堂の典型例とされている。表門は一間薬医門で本堂と共に重要文化財。1258年の造銘のある木造阿弥陀如来立像も重要文化財。

大雄寺 浄土宗。表紙写真参照。(参5) 祐正寺 浄土宗。通称「つまとり地蔵」と呼ばれる縁結びのお地蔵さんが有名。

福勝寺 真言宗。後陽成天皇の勅願所とされ、後西天皇が左近の桜を当寺に下賜、以後桜寺ともいわれる。豊臣秀吉に瓢箪の御守りを授与したことから瓢箪寺とも呼ばれる。秀吉にゆかりのある瓢箪の御守りは節分に扇子とともに授けられ、当日は祈願者で賑わう。

以下の参照は上京区役所ホームページで閲覧・ダウンロードすることができます。上京区役所ホームページのトップページにある「サイト内検索」でそれぞれ「史蹟と文化」「上京乃史蹟」を入力検索の上ご参照ください。

参1 史蹟と文化25号 大略小路 下立売通 出雲路敬直氏

参2 上京史蹟だより5号 上京区内の神社 大将軍八神社 小栗栖恵昌氏

参3 上京乃史蹟24号 上京古地図 大将軍社 大塚隆氏

参4 史蹟と文化40号 大略小路 天神通 出雲路敬直氏

参5 上京乃史蹟14号 上京文人墓誌 山内貞夫墓 竹内俊則氏

町名・地名は歴史のタイムカプセル

「公家住宅」編

京都産業大学 日本文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

★「近衛殿表町・近衛殿北口町」

新町通上立売下ル

「同志社大学 新町キャンパス」の辺りです。江戸時代に記された「山州名跡志」に「此所、北方に近衛殿の別業あり。古に絲桜ありて、皆人、これを賞す。」とあります。現在「近衛邸址」といいますと、京都御所の北側、京都御苑の北の一角に、広大な桜の園を有するあたりを連想しますが、近衛家がこのあたりに越してきたのが天正年間のこと。本邸を御所近くに移した



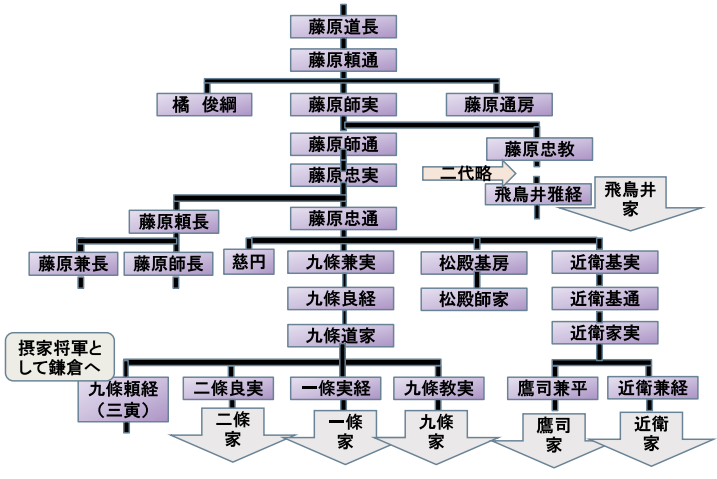
同志社大学 新町キャンパス内
「近衛殿跡」石碑
撮影協力：同志社大学

がら、尚、両町付近にあった元々の本邸も別邸として世に知られていたのでしょうか。上京区内には他にも、近衛家の別邸の址が多くみられ、五摂家の筆頭として隆盛を極めていたことが、それらの史跡や町名からもうかがえます。

★「一条殿町」新町通一条上ル

現在の町域は、正確には「一条通」に面していませんが、一条通のほんの30―40m北に位置する程度なので「一条家」家名の由来とって差し支えはないでしょう。一条家の祖とされる一条実経（1223―1284）は九條道家の四男で、「一条家」は「九條家」の分家です。「九條通」に対して「一条通」と連想され、世間はその家名は直ぐに広まったことで

藤原家 家系略図(五摂家・飛鳥井家)



しょう。鎌倉時代には一町四方の広大な屋敷が建てられ、室町時代の一時期、細川頼元の屋敷となった時代を挟んで、再び、一条家がこの地に戻ってきました。一条家の幕末期の当主である左大臣一條忠香の三女である美子は明治天皇の皇后（昭憲皇太后）となりました。

家としても有名ですが、現在も白峯神宮では、主祭神の崇徳天皇（1119―1164）や淳仁天皇（733―765）と御一緒に、飛鳥井家の守護神である「精大明神」を蹴鞠の神様として祀っています。「飛鳥井家」の名の由来は、邸内に湧く名水「飛鳥井」に由来するもので、今も白峯神宮の境内

★「飛鳥井町」

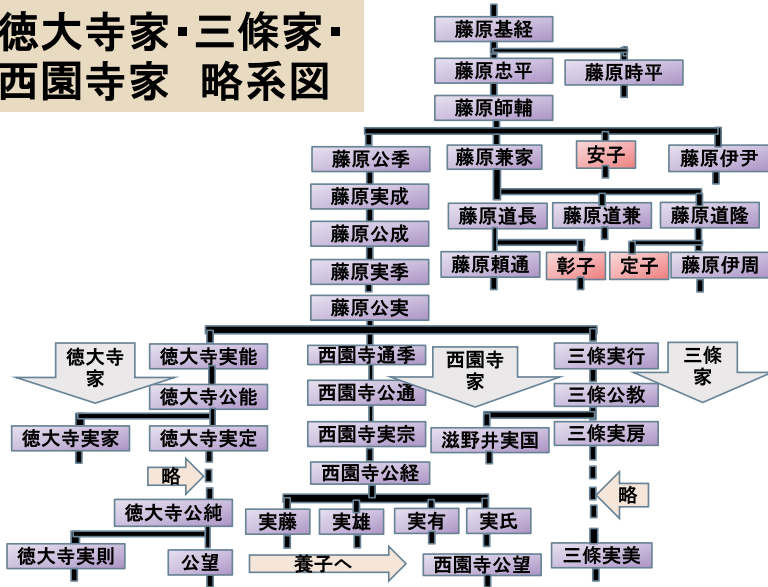
今出川通油小路

現在、白峯神宮の境内が町内の殆どを占めていますが、明治の初めまでは「飛鳥井家」の邸宅がありました。「飛鳥井家」といいますと、蹴鞠の宗



白峯神宮での「蹴鞠」奉納の様子
画像提供：白峯神宮

徳大寺家・三條家・西園寺家 略系図



には、手水舎に滾々と湧き出ています。また、4月14日の例大祭や7月7日の「精大明神例祭（七夕まつり）」には、蹴鞠保存会による蹴鞠が奉納され、その雅な様子に、往時の飛鳥井家を偲ぶことができます。

★「徳大寺殿町」今出川通新町下ル
現在、「霊光殿天満宮」や、その向かいに同志社大学継志寮が建っている辺り、この地にかつて「徳大寺家」の屋敷があったとされています。

徳大寺家は藤原家の流れで、平安時代後期、藤原

実能（1096—1157）を流祖とします。初代の実能が、衣笠に山荘を造営し、後に得（徳）大寺を創建したことが、家名の由来です。寺を含む山荘「徳大寺殿」は室町時代中期に、細川勝元がこの山荘を譲り受けて龍安寺を建立しました。徳大寺という名の寺院は無くなりましたが、龍安寺の広大な伽藍から当時の徳大寺の様子をうかがい知ることができます。

江戸時代初期、徳大寺家の本邸は、現在の「徳大寺殿町」から、禁裏（御所）の北に位置する公家屋敷街に引越し、冷泉家や藤谷家のご近所さんになりました。現在、同志社大学今出川キャンパス南西、今出川通沿いに建つ大きな門は、その当時の徳大寺家の門だったのです。

★「広橋殿町」

一条通 烏丸—室町間

平安時代の終わり頃、二条天皇の母、源伊子の邸宅があったとされ、後に広橋（廣橋）家が移り住み、安土桃山時代の頃には「広橋殿」と呼ばれるようになったといわれています。一条通に面したこの辺りは、平安時代の中頃から「賀茂祭（葵祭）」の行列を見物するための棧敷席を設けていたといえます。また室町時代後期には、宮中の御用商人であった京菓子司「虎屋」（注）が店を構えました。「広橋家」は、藤原北家日野流の流れを汲み、藤原（日野）頼資（1182—1236）を祖とします。同家には

HOSOO

HOSOO FLAGSHIP STORE

〒604-8173 京都市中京区柿本町 412
TEL 075-221-8888 10:30-18:00（祝日を除く）
www.hosoo.co.jp



数多くの古文書が伝わります。中でも、三代目の広橋兼仲の日記である「勘仲記」は、元寇のことなど、鎌倉時代の政治的な動きが克明に記されていることから、資料的価値が高く、その名がよく知られるところでした。また、江戸時代には、朝廷と幕府の調整役である「武家伝奏」、あるいは寺社と公家の間を取り持つ「寺社伝奏」も勤めていました。家名通り「橋渡し」役を得意にしていたのでしようね。

注 「史蹟と文化」 7号 美を創る 御菓子司 虎屋 十七代当主 黒川光博 参照

★「東日野殿町・西日野殿町」

一条通 室町―新町間

室町幕府の将軍に次々と正室を嫁がせた、名門「日野家」の邸宅の址とされています。「親長卿記」に記された「日野一位資綱宿所」が現町内にあったとされているため、町名の由来となったと推測できます。現在、上京中学校の敷地のほとんどは、この二町です。日野家は藤原家の流れで、鎌倉時代

の頃には、伏見区の日野に邸を構えていたため「日野家」となりました。日野の里は、昔、藤原家の氏神である春日大社の前に広がる「春日野」にあやかっそう名乗っていたのですが、「春日野」という紙を貼り付けた案内板（看板）を、鹿が「春」の文字のところだけを、ムシヤムシヤと食べてしまったとか。それで「日野」と地名を改めたという言い伝えがあります。

日野家で有名な日野勝光（兄・日野富子（妹））が、権勢をふるっていた応仁の乱の頃に、この2町にあった屋敷が焼けたため、西方寺町（中京区竹屋町通両替町）に移ったとされています。



（画像提供：百萬遍知恩寺（左京区））
絹本着色 日野勝光像（非公開）

★「元土御門町」・「土御門町」

新町通上長者町東入ル（元土御門町）・西入ル（土御門町）

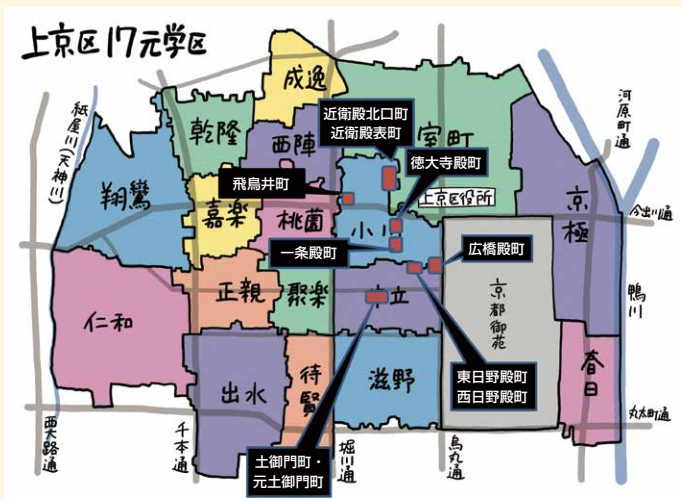
現在「上長者町通」と呼ばれている通りは、元は「土御門通」と呼ばれていました。平安時代の後期、源雅実（1059―1127）の屋敷が「土御門殿」と呼ばれ、やがて鳥羽天皇の里内裏（臨時の御所）となり、

その後も、歴代天皇の里内裏として機能し、鎌倉時代末には、天皇の居所として現在の京都御所へと発展していきます。（本号p. 10「新・上京の昔ばなし」参照）

今昔物語では、陰陽師の安倍晴明が、この辺りに住した後、葭屋町一条上ル（現在の晴明神

社辺り）に移ったとあります。安倍晴明の子孫達が、後に「土御門家」と改名するのは、こうした経緯を反映しているのでしょうか。また、京都御苑の東（鴨沂高校の北辺り）には、藤原道長が本邸とした「土御門殿」もありました。「紫式部日記」に記されている「土御門殿」はこちらの屋敷の方です。

今回紙面登場の町名 エリアを確認



画像協力：上京区役所

新上京の昔ばなし

足利義教と鍋かぶり日親



上京区総合庁舎にほど近い室町今出川の東北角、理容店の片隅に「従是東北 足利將軍室町第址」の石碑が建つ。脇面に「大正四年十一月建立」と彫られていることから、戦前・戦後の100年余、付近を通る人々の目に触れてきたことになる。

足利將軍室町第とは、足利幕府第3代將軍足利義満が1378年（永和4）菊亭家の屋敷だった今出川殿の跡に完成させた新しい邸宅で、南は北小路（現今出川通）、北は毘沙門堂大路（現上立売通）、



「従是東北 足利將軍室町第址」の石碑
（上京区室町今出川東北角）

東は烏丸小路（現烏丸通）、西は室町小路（現室町通）を範囲とした。義満は翌79年（康暦元）に、北接する花亭と呼ばれた邸宅に移ったが、河川から水を引いて池を造り、四季折々の花が美しく咲き誇った庭園をもつ両邸宅を合わせて「花の御所」と呼ばれた。

ここが義満から第13代將軍足利義輝までおよそ200年の間、政權の拠点となり、室町幕府、室町殿とも称された。現在、花亭址には同志社大学や大聖寺、菊亭址はマンションや住宅が建ちながら、幕府の痕跡はほとんど残っていない。

幕府は室町第に移るまで三条坊門万里小路（現中京区柳馬場御池周辺）にあり、三条御所と呼ばれていた。

これ以前の31年（元徳3・元弘

元）から北朝初代の光厳天皇は、土御門東洞院殿を里内裏から内裏の使用に変更していた。内裏のすぐ西北に幕府が移ってきたことにより、この周辺が日本の政治の中枢へと変容し、内裏と上京は公家ばかりでなく武家の町ともなった。そして、門跡寺院や侍たちの菩提寺などが相次いで建てられ、商工業者の下京とは対照的な発展を続けたのは周知のとおりだ。



この室町第の主役に挙げられるのが第4代將軍足利義持と第6代將軍足利義教の二人。ともに義満と側室の藤原慶子の実子で、義持が長男、義教は五男に当たる。四男に義満と側室春日局の子足利義嗣がいた。

義満から將軍職を譲られ、94年（応永元）9歳で第4代將軍に就いた義持は、守護大名とも協調して歴代將軍に比べて安定した政權

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

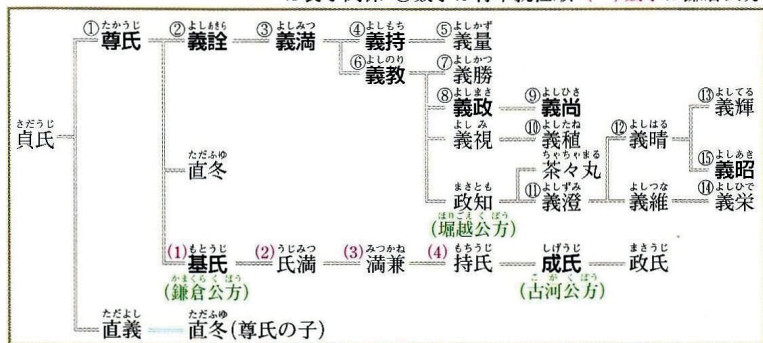
<https://seishodo.com/>

お気軽にお問い合わせください

を築き、その在職は歴代室町將軍で最長の28年に及んだ。38歳の時、17歳の子義量に將軍職を譲り、等持院で出家して道詮と号した。

ところがわずか2年後の1425年（応永32）、義量は数え19歳で急死してしまった。義量は痲瘡を患うなど生来病弱であり、さらに大酒飲みで健康を害したと言われる。妻帯もまだで他に成長した兄弟もいなかった。また幕府のしきたりとして、後継者争いが起き

は養子関係 ○数字は將軍就任順 ()数字は鎌倉公方



足利將軍家の系図 6代義教は3代義満の実子、5代義量の叔父にあたる

ないように嫡男以外の男子は出家しなければならなかった。そのため、嫡男の義量以外は出家しており、後継者がいなかった。義持には異母弟義嗣（幼名鶴若丸）がいたが、同年生まれのもう一人の実弟春寅丸（後の足利義教）とともに僧侶となること

義円と名乗った春寅丸

が予定されていたため当面は大御所の義持がそのまま幕府を統括することになった。

春寅丸は03年（応永10）10歳の

時に、皇室や摂関家の子弟など身分の極めて高い人々が僧籍となるための門跡寺院である青蓮院に入り、5年後に出家して義円という法号を名乗った。その後も学問と仏の道に進み、19年（応永26）

26歳になった時、天台宗の頂点で比叡山延暦寺の象徴でもある第153代天台座主に付いた。その才能は「天台開闢以来の逸材」とも称されたという。そのまま比叡山にとどまっていれば天下の名僧として今に伝えられたかも知れない。

兄の死で変わった運命

ところが義円の運命は兄義持の死によって大きく変わってしまう。義量が急死した3年後、実権を握り続けていた義持が28年（応永

35）1月、病に倒れたのだ。

義持は第6代將軍の指名も拒否したままだったが、その理由として「義量死亡の後に一度石清水八幡宮で籤を引き、男児誕生の結果が出た。その日には男児誕生の夢も見た。それなのにもう一度籤を引くことは神慮に背く」ことを挙げ、このため養子も猶子も定めなかったという。また弟たちが將軍職に耐えうる器ではないと考えていたとも伝えられる。

「これでは幕府が潰れてしまう」と危機感を抱いた三宝院満濟や管領・畠山満家ら重臣たちは評議を開き、

- ・ 梶井門跡義承
- ・ 大覚寺門跡義昭
- ・ 相国寺虎山永隆
- ・ 義円

の中から次期將軍を選ぶことになった。4人とも義満を父に持ち、義持の弟に当たる。

義持は籤引きを行うに当たって「自分の存命中に籤での決定を

心しづめの宮

御霊神社

（上御霊神社）

毎月18日 さえずり市（5月を除く）

上京区上御霊前通烏丸東入

電話075-441-2260



<https://reizeike.jp>



公益財団法人

冷泉家時雨亭文庫



するな、自分の死後に籤を引くように」と命令したが、重臣や諸大名たちは「没後には神前において左右無くこの御籤取りがたかるべし」（没後に神前に籤を取り難い、籤を取るまでの間の後継者不在は混乱を起こす可能性がある）として、重臣たちは籤を作って内々に神前で引き、義持死後に開封することを決めた。

同月17日午後、義持は人事不省（昏睡状態となること）の危篤状態となり、翌18日夜に死去した。享年43。死因は敗血症と推測される。義持の死の直後の19日、重臣たちが籤を開封したところ、そこにあつたのは義円だった。

前代未聞の籤引き將軍

義円は幾度か辞退したが、重臣・諸大名が重ねて強く要請したため、前代未聞の「籤引き將軍」として還俗（僧から俗人に戻ること）することになり、約2ヵ月後に義宣と名乗り、従五位下左馬頭に叙

任された。4月14日には従四位に昇任したが、將軍の宣下はなかった。このため鎌倉公方足利持氏が將軍となるという流言が走り、京都に不穏な空気が流れたとも伝えられる。

29年（正長2）年3月義宣は義教と改名して参議（日本の朝廷組織の最高機関である太政官の官職の一つ）近衛中将に昇った上で征夷大將軍となった。改名の理由は「義宣」が「世忍ぶ」と陰口され不快ということであった。当初は公家が協議して新たな名に「義敏」を決定していたが、「教」の字の方が優れているとの声が出て、摂政二条持基を通じてこれを訂正させたという経緯がある。

有力守護大名の力削ぐ

將軍という最高権力者の地位についた義教。元々後継者になることができない僧職であり、義満のように絶対的な権力を有する強い將軍となることを願って、積極的

に改革に乗り出した。まず守護大名の中でも特に権力があつた三管領である斯波家・畠山家や、四職である京極家・山名家の後継者である、守護大名たちの力を削いで、將軍の権力強化を目指した。39年（永享11）に起こった永享の乱で、幕府の命令に無視し続けていた足利持氏を自害に追い込み、鎌倉府を廃止して権力の範囲を拡大させた。そのやり方はどんどん苛烈になり、やがて義教は万人恐怖の悪御所と呼ばれるようになってしまった。その詳細は次回以降に譲るとして、ここでは日親上人との軋轢に触れておく。

日親上人に鉄鍋の拷問

日親は07年（応永14）年に上総（現在の千葉県）の国に生まれた日蓮宗の僧。妙宣寺（千葉県山口市埴谷）を開山した父の日英から学び、中山法華経寺（千葉県市川市）に入門した。

27年（応永34）21歳の時に上洛



北野天満宮

学業成就

災難厄除

平安京の天門
厄除、疫病退散
御霊信仰の社

全国天満宮総本社

アクセス 市バス「北野天満宮前」下車すぐ
住所 京都市上京区馬喰町
電話 (075) 461-0005

し、京都や鎌倉などの各地で布教活動が続けた。日親は一条尻橋の畔に傘をたて、辻説法を行つたが、比叡山延暦寺や將軍家の帰依を受けていた臨濟宗などの他宗派から激しく糾弾された。33年(永享5)には中山法華経寺に代表される中山門流総導師として肥前国(現在の佐賀県・長崎県の一部)で門徒を指導したものの厳しい折伏が反発を買ひ、同流から破門されたが、37年(永享9)再度上洛して本法寺当初は東洞院綾小路にあった)を開いた。

40年(永享12)2月、日親は乱れた世の中を法華経によつて救おうと、將軍義教へ説法する機会を得た。一回り以上も年配の義教に対し自ら著した『立正治国論』を示して、將軍家の日蓮宗への帰依や諸寺院の日蓮宗改宗を説いたが、「二僧侶が將軍に諫言するとは僧上の沙汰」と逆に投獄されてしまい、寺は破却された。

義教は日親の説法に激しく反

発、鉄を焼いて脇腹に押し付けた。二度と喋ることができないように舌先を切り取つたり、真つ赤に焼けた鉄鍋を頭にかぶせるなど拷問を加え続けた。この鍋は終生頭から取れることはなかったという伝説が生まれ、「鍋かぶり上人」「鍋かぶり日親」等の名が付いた。

「仏罰は必ず現れる」

義教はこの折檻を冷ややかに眺め「自分がこのように法華の僧を責めても將軍には罰は当たらないではないか」と嘲笑したが、日親は「仏罰は百力日以内に必ず現れるであろう」と予言したという。



日親像
(本法寺蔵 伝狩野正信筆)

この言葉どおり翌41年(嘉吉元)の嘉吉の乱で義教が赤松満祐に暗殺された。これにより、日親はようやく赦免された。本法寺は63年(寛正4)に町衆の本阿弥清延の協力を得て再建され、多くの僧侶たちが住むところとなった。日親はこの経過を見届け88年(長享2)に入寂した。享年82。灼熱の鍋を頭からかぶせられ、舌を切られても生涯、不受不施義(法華経を信仰しない者から布施を受けたり、そのような者に仏法を説いて聞かせたりしないこと)を説き続けたという。

(福井和雄)

京都市指定



水道・下水道修繕工事(空調)・井戸ポンプ設備・建物リフォーム

大西工業株式会社

〒602-8072 京・上京区中長者町通新町西入 TEL.(075)451-3123 FAX.(075)432-2874

0120-350672

消 防 設 備 全 般

「みんなで 花を咲かそう」

ボランティア活動

上京区総合庁舎前の花壇をボランティアとして、毎日水やりや手入れをしています。11月28日には、一斉植替えを行い、オリーブとパンジーを新たに植えました。立派なオリーブと可愛らしいパンジーは来庁者の目を楽しませてくれます。

上京薪能

9月21日に白峯神宮にて3年ぶりに開催しました。晴天に恵まれ、かがり火がゆらめく中で演じられる幽玄の世界をお楽しみいただきました。

上京茶会

11月12日に本山 叡昌山 本法寺にて裏千家の懸釜で開催しました。密を避けるため人数制限を行い開催することが出来ました。秋の深まる美しいお庭を見ながら、心休まるひとときをお過ごしいただきました。

表紙写真

だいおう じ 大雄寺(京都市上京区三番町284):寒菴蒲
かん あやめ
撮影:写真家 水野克比古氏

大雄寺は、1602年に慶譽上人が創建した400年以上の歴史を持つ浄土宗のお寺。山号は金龍山。阿弥陀如来を御本尊としている。江戸時代1788年の天明の大火で一度焼失したが、再建。

境内には、江戸時代の儒医者・松下見林(1637-1703)の碑が建てられている。松下見林は、医学、儒医、国学、算術、経学に通じていたと伝わる。著書に『日本三代実録』の校訂出版、外国資料による日本史研究書『異称日本伝』などがあり、大雄寺内にお墓がある。

また、若干30歳で戦死した映画監督山中貞雄氏への追悼の碑も建つ。碑文は、名監督 小津安二郎氏によるもので「～幾多の名作を世に問ふ、その意匠の逞しさ、格到の美しさ、洵に本邦藝能文化史上の亀鑑として朽ちざるべし～」と記載されている。



京都御所西 護王神社

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下長者町下ル
(地下鉄丸太町駅下車北へ7分)

<http://www.goujinjinja.or.jp/> 電話 441-5458



紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御堂前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

元祖

畑かき

ぼたん鍋と京料理



京・上御堂前烏丸西
☎〇七五・四四一・〇六一〇代



虎
どらや

www.toraya-group.co.jp

京都に生まれて五世紀

売買や相続、建築・リフォーム、残置処分にかかるまで

住まいにまつわるお困りごとはお任せください。

寺社仏閣の借地管理等で培った豊富な経験でお手伝いいたします。



いにしへの町を、想う。 602-0898 京都市上京区相国寺門前町647番地1

玄武管財

☎ 075-411-1214

info@kyoto-genbu.co.jp http://kyoto-genbu.co.jp/



「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)



- 神学部 ●文学部 ●社会学部 ●法学部 ●経済学部
- 商学部 ●政策学部 ●文化情報学部 ●理工学部 ●生命医科学部
- スポーツ健康学部 ●心理学部 ●グローバル・コミュニケーション学部 ●グローバル地域文化学部



同志社大学

Doshisha University
https://www.doshisha.ac.jp



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL : (075) 251-3120



京都人さえもが恋するホテル。

BRIGHTON
KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）FAX.075-431-2360
https://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/

(東洞院通)

大丸さん北隣のよろず屋 四条店では

時計・貴金属

高価買取実施中!

鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心

ブランド品 販売・買取 (株)よろず屋

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号

本 店 地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 0120-25-0700
TEL 10:00~19:00 [土曜は18:00迄] 土日曜・祝日 10台有

四条店 地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ TEL 075-241-7900
TEL 10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通) 年中無休

●FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。●公共機関の鑑定士もつとめています。

「たのんでよかった!」
皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。



西陣の大工さん

みずほ工務店

TEL.075-204-8283

http://www.mizuho-koumu.com

京都市上京区上立売通浄福寺西入上る真倉町752

本田味噌本店
京都市上京区堂町通一茶五八



西京白味噌®

<http://www.honda-miso.co.jp>



山田松香木店
香木・薬種・薫香

〒602-8014
京都府京都市上京区勘解由小路町164
(金町通下五上上ル)
TEL(075)441-4694
FAX(075)441-1124



MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM-6:00PM 年中無休 (喫茶10:00AM-6:00PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル ☎ 0120-668-399

単なるデリバリーカンパニーでなく、
人や企業の信頼を結ぶ運送会社です
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物～4t車まで)

引越サービス



近運貨二第186号(社)京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257
<https://delivery-service.jp/>

